

ソフィア会函館大会に 225 人参集し大盛会

上智大学 100 周年祝う東京大会へ希望のバトンタッチ

第4回地域ソフィア会全国大会 2012 北海道大会 in 函館が平成 24 年 10 月 6 日(土)～7 日(日)函館市大手町 5-10「函館国際ホテル」に九州の熊本、福岡をはじめ高知、香川、鳥取、関西、名古屋、信州、山梨、静岡、小田原、藤沢、横須賀、立川、東京、埼玉、群馬、岩手など全国津々浦々だけでなく、香港からも同窓のソフィアン総勢 225 人と子女 2 人を迎えて、過去の地域ソフィア会としては最多人数となる規模で盛大に開催された。6 日(土)午後 3 時半から始まった大会の開会挨拶の中で、高祖敏明上智学院理事長は“Sophia connects the World”の旗印を高く掲げ、“Men and Women for Others, with Others”の提言の下に全世界のイエズス会教育機関・施設と連携・糾合しつつ、アジア・アフリカ地域も視野に入れた、国際的つながりを持つ学際的な絆を深める“Global Competency”を意図するグランド・レイアウトを、2013 年を目標に構築する大構想を明らかにした。参加者たちはみな多大な感銘を受け、上智大学 100 周年に向けた見えざるルールは着実に敷設され、来年開催される東京大会への希望のバトンタッチは明確に行われ、函館大会は大成功裏に閉会した。



大会ハイライトのパネル・ディスカッション

函館元町教会で成功を祈願するミサ 大会に先立って第4回地域ソフィア会全国大会を記念し、成功



厳かに記念ミサを告げるポスター

を祈願するミサが 10 月 6 日午前 10 時から元町 15 番 30 号のカトリック元町教会で、主司式者・高祖敏明神父(上智学院理事長)、共同司式者・増田祐志神父(上智大学副学長)、喜田 勲神父(札幌藤大学学長)、富来正博神父(札幌光星学園副理事長)

の 4 人によって举行された。優雅な教会堂の天井高くオルガンが鳴り渡り、入祭の歌「ごらんよ空の鳥」に合わせて参拝者の



でしょう」と胸に響くお説教。ことばの典礼後、旧約聖書ヨブ記

42 章 1-3、5-6、12-17 節が「…ヨブはその後 140 年生き、子、孫、4 代の先まで見ることができた」と詠まれ、「神よあなたのことばは」の答唱詩編。ルカによる福音 10 章 17-24 節朗読後、益田英子・札幌ソフィア会実行委員(札

函問往復「ソフィア」号バス配車担当)が共同祈願の先導役を務めた。この後、感謝の典礼が続き、荘厳な雰囲気の中で聖体拝領が行われ、その後「第

4 回を迎えた地域ソフィア会全国大会が実り豊かなものとなり、100 周年を間近に迎えた上智大学とその卒業生を支え、その絆をますます固くし、よりよい世界のために尽くす力と勇気を抱くことができますように」と拝領祈願し、「すべての国よ神をたたえ」という閉祭の歌で成功祈願ミサはフィナーレとなった。

信者でない参拝者にも特別聖体拝領？

今回の函館大会を運営した実行委員長の城木浩一札幌ソフィア会会長(造園業榊グリーンガーデン社長)と中村由紀夫函館ソフィア会会長(函館国際ホテル取締役相談役)、そしてこの 2 人をがっちり結びつけた仲介役の小林裕幸実行副委員長(札幌ソフィア会・元札幌テレビアナウンサー・前函館大学教授)は、大会を成功に導いた“三位一体”と言えよう。

この 3 人は 1 年前の 10 月から札幌と函館で実行委員会を組織し、盤石の態勢でアイデアたっぷりの企画を組み上げてきた。

9組に分かれてソフィアンズファミリーの集い

女子ソフィア会は「復興への のろーい道のり」講演会

10月6日午後1時から昼食時間をはさんで函館国際ホテルの2階の5広間に分かれて情報交換会と9つのソフィアンズファミリーの集いが開かれた。「白鳳」



函館大会の受付は大忙し

の間で開かれた情報交換会は全国各地から参集したソフィアンたちの意見交換と懇親の場（後述）。「高砂」の間で開かれた札幌女子ソフィア会の「南三陸の人々とともに歩んだ日々―復興への のろーい道のり」講演会には高祖上智学院理事長と細川佳代子パネルディスカッション



熱っぽく被災地の窮状を訴える伊藤さん

司会者ら約40人が出席し、元北海学園大学教授の伊藤淑子さん（1972 文社）の講演に耳を傾けた。伊藤さんはロンドン大学、ボストン大学、オックスフォード大学などで社会福祉を研究し、1994年日本女子大で社会福祉学の博士号を取得。定年を待たず北海学園大を退職、昨年12月から半年間、南三陸町の中学校校庭の仮設住宅に住み込み、現地の人たちと寝食を共にし復興への道のりを共に歩んできた。

講演要旨 南三陸町は人口約1万7千人（5千3百世帯）の漁業中心の町。震災により死者565人、行方不明310人、全半壊世帯が全世帯の57.7%という大被害を被った。仮設住宅58カ所で2,168世帯5,800人が入居している。震災後、多くのボランティアが町に入り、イベントの実施、物資の供給などを行ってきており、現在も続いている。



細川佳代子さんと高祖理事長も傾聴

1960年代以降、行政区という形で再編されたが、その伝統は続いている。仮設住宅での生活が長期化すると思われた時点で、住宅によっては行政区の伝統を生かし、共同の運営・管理が行われている。しかしそれはあくまで点に止まり、線から面へという展開は困難なようである。

復興住宅の建設 多くの住民の頭を占めているのは仮設住宅を出た後の暮らしである。高齢などの理由で住宅再建が不可能な住民は、災害復興住宅に入居することになる。志津川地区の住民を対象にした調査では、公営住宅入居希望39%、集団移転35%、個別移転22%だった。災害後、被災地には阪神淡路、中越などの被災を体験した住民や研究者が訪れ、経験を伝えてくれた。中でも中越地震の体験者から伝えられた木造二階建ての復興住宅は、居住性の良さや、他の住宅との近接地に建てられるなどの理由で、住民の関心を集めた。しかし現在検討されているのは、従来からある鉄筋コンクリート高層住宅（団地型）の建設であり、その方向で進む可能性が高い。こうしたことの実現に向け、住民、NPO団体、行政が互いに協力し合う状況は残念ながら望めない。

いま何が求められているか？ 被災者の希望は「慰問・物資」から変化してきている。被災地に「泊まって、食べて、土産を買い」地域経済の復興を支えること、そういう関わりを継続することが、希望の中心となっているように思われる。私としては、同じような震災が起きた時に、自分が住んでいる地域が南三陸町と同じような住民自治を築く可能性があるか、ないとしたら今から何をすればよいか、それを考える良い機会を与えられたと感謝している。（磯浦康二要約）



被災地の実情と私達に出来る事を訴える伊藤講師

被災地の実情と私達に出来る事を訴える伊藤講師では、多くの人々が集団生活をしており、外部支援に対応する人手もあった。仮設住宅は各家庭単位の生活であり、人手はない。仮設住宅入居後の1年は、住民の関係が希薄だったこともあり、住民の交流促進や慰安提供のためにイベントなどが重視されたが、生活が落ち着いた2年目以降は、正確な情報提供に基づく住民自治の形成が課題になっている。

重要な住民自治 仮設住宅の自治会組織率は100%で、まとまりは良い。この地方には江戸時代から「契約講」という相互扶助を基盤とした自治組織があり、

マスコミ・ソフィア会の集い



村松座長(左)の司会で北海道を語り合う出席者

と絵葉書などが提供され、啄木の短歌「しんとして幅廣き街の秋の夜の 玉蜀黍(とうもろこし)の焼くるにほいよ」を見て、磯浦氏はNHK札幌局に勤務した頃の大通り公園を思い出、美味しい北海道の玉蜀黍の味について話した。

また、前日の10月5日(金)に行われた行燈行列デモについても話が出た。函館に到着したメンバーが夕刻、市内の函館市役所前を歩いていた時「大間原発ハンター!」「イカモタコモ ハンター!」と声を挙げながら行進している行燈行列を見かけた。これは、東日本大震災による福島第1原発事故の後、青森県の大間原発は工事を休止していたが、10月1日に電源開発が工事再開を宣言したことへの抗議の行燈行列だった。函館と大間は津軽海峡を挟んで18キロしか離れていないので函館市民としては人ごとではなく、毎週金曜日の首相官邸前デモに合わせて約80人が市役所周辺を行進した。



畑中幹事を中心に熱を入れてリハーサル

タンゴ」「二つのギター」「さくら」を次々にリハーサル演奏した。これらの曲は午後6時半からの懇親会で上智大学校歌2番までに続いて本番演奏され、満場のソフィアンたちの大喝采を浴びた。

花の38英文科会

小林明子幹事を中心に夫の小林裕幸氏、村上玲子さん、須田聖子さんの4人に同席頂いたドナルド・ドイル上智大学ソフィア会副会長を交えて近況を話し合い、改めて38会の絆を確かめ合った。同席のドイル神父と共に刈田・巽両先生、ロゲンドルフ神父、ヒューズ神父、オマリー神父、ミルワード神父、高柳先生ら恩師に関する懐旧談に花を咲かせ、みな半世紀も前のフレッシュマン時代を思い出、胸が熱くなる感を味わった。来年は開学100年と同時に金祝を迎える38組は二重の喜びで感慨もひとしお。学び舎の樹木も大きく育ち、土手の桜も大木になった。高祖理事長の壮大な構想に上智大学の未来に思いを馳せ来年母校での再会を誓い合った。(小林明子要約)



マスコミ・ソフィア会の集いが第4回地域ソフィア会全国大会2012北海道大会 in 函館の「ソフィアンズファミリーの集い」の中、「青柳」の間で開かれた。前札幌ソフィア会会長の村松良彦氏(元北海道新聞記者・文新'58)を中心に東京から参加したマスコミ・ソフィア会の磯浦康二代表幹事(元NHKアナウンサー・'57文新)をはじめ小林宏之(元NHKアナウンサー・'61文新)、大堀隆之(元NHKアナウンサー・'61外露)、向山肇夫(医学書院出版・'63法法)、山田洋子(フリーライター・'77外独)の各氏が参集し、北海道の話題を中心に話しか合った。参加予定の女性5人は女子ソフィア会の方に優先出席した。

プロ野球北海道日本ハムファイターズ優勝の話、着工決まった北海道新幹線、石川啄木生誕120年の話、東日本大震災被災者6,000人が北海道に移住している話も出た。石川啄木については村松氏から資料



函館市役所周辺のデモ行進

さらに上智学生時代の話となり、新聞学科長で「新聞原論」を担当した小野秀雄教授にお世話になった思い出や、NHKや北海道新聞を受験した時の裏話も飛び出した。そして青函連絡船がまだ現役の頃、地方放送番組「ラジオ連絡船」を担当し苦労したことや函館の路地裏の魚の旨い店の話題などに花が咲き大いに親睦を深めた。

(磯浦康二・向山肇夫要約)

マンドリーノOBの集い

畑中中文夫幹事('73理電)を世話役に「アクアマリン」の間で開かれ、12時半から10人ほどで昼食をとった後、午後1時半から21人のマンドリン奏者が同クラブOBの新井廸久さん('70法法)の指揮で「闘牛士のマンボ」「エスパーニアカーニ」「バラの

(畑中中文夫要約)



ドイル副会長を交えて有意義な懇談

46英文の集い

「青柳」の間に集ったのは青木淳子、小野寺久美、安井 彰=写真左=、吉田かよ子(50音順)。札幌在住の女性3人は時々会っているが、首都圏から駆けつけた男性とは卒業以来の再会で大いに盛り上がった。同級生たちの消息、当時の先生方のことやキャンパスでのこと、昨年は卒業後初めて開催されたクラス会の模様、そして「団塊の世代」である自分たちの今と今後のことなど…。話していると、自分たちが60歳をかなり過ぎたおじさん、おばさんであることを忘れて、すっかり大学生の気持ちに戻り、貴重な時間を過ごすことが出来た。(青木淳子要約)

喜田先生を囲む集い



立川邦彦幹事（'82 文社）を世話役に「青柳」の間に集まったのは上智大学学生寮の8代目舎監長の喜田 勲先生を筆頭として、第12代学長のウィリアム・カーリー先生、増田祐志副学長、三輪義彦上智大学事局長（'84 文副）、徳永英生（'55 経経）・徳永芳江夫人、小林孝幸（'57 文教）、佐藤方則（'76 外英）、菅野光洋（'79 法



▼2つの卓を1つにつなげて歓談▲

初めは別々に話し合っていたのに…（法）、津久井博次（'79 法法）、池田幸久（'82 文社福）、永倉 聡（'83 文社）、堀 憲一（'83 法法）、廣川克也（'93 経経）＝寮生参加者の敬称略＝の15人。

6代目・松岡洸司ー7代目・関谷 誠ー8代目・喜田 勲舎監長の時代に学生寮に住んだ立川幹事たち出席者が、当時の思い出を「喜田先生を囲んで夜遅くまでよく酒を飲んだ」「土手いっぱい植わった桜を眺めてよく花見をしたもんだ」「それも今では禁止になったとか」「今井さんが留学生を連れて札幌に来たので、案内役をしたなあー」など、懐旧談にたっぷり花を咲かせた。喜田先生は「学年や学部が違って、年代が代わっても、学生寮の同じ“釜の飯”を共にした寮生の心はがっちり



つながっているなあー」と感慨深気。最初は6人掛けの円テーブル2つを囲んで別々に話し合っていたが、いつの間にか2つの卓をつなげて、15人が意気投合して話し合うようになり、全国各地に寮生OB会結成の波が広がる中、北海道の寮生OB会を結成する成果を挙げ、代表に立川幹事を選んで名残り惜しげに散会した。（立川幹事の報告を村松要約）

函館ゆかりの集い

（写真下▼）

佐藤安弘幹事（'78 理電）が主宰する「青柳」の間に集結したのは弓子夫人と、函館の高校に進学したご自身を含め函館大好き人間約10人。寺分良平（'57 経商）、名取新一郎（'63 外西）・賜子夫人、横山敬三（'68 経商）、土樋光雄（'71 文独）、蓮井 智（'75 文仏）・姫良々夫人＝参加者の敬称略＝。生まれ育ちが函館、先祖が五稜郭で闘った、退職後に悠々自適の地に函館を選んだなど、函館と様々な関わりがあるのが“合言葉”。互いに共通項の多いソフィア在学中の学窓の懐旧談と、多種多様の生き方に話の花が咲いた。参加者みんなの共通項は「充実した人生を歩んできて良かった」こと。ソフィアと函館に話題を絞り込んでも、人の数だけ生き方も多様な人生があると認識し、勇気が湧いた集いだった。（佐藤要約）



一人参加のソフィアン卓

長谷川聡幹事（'79 外西）が「青柳」で昼食をとりながら待機していたところ、中島貞夫・上智大ソフィア会役員選考委員長（'55 経経）が顔を出した。中島先輩は村松・前札幌ソフィア会長とアロイジオ塾で同じ釜の飯を食べた間柄。マスコミ・ソフィア会の集い（隣席）で昼食中の村松が目ざとく見つけて歩み寄り、長谷川幹事をさておいて懐かしさの余り歓談を始めた。無所属・一人参加のソフィアンに寂しい思いをさせないという温かい気遣いから、長谷川幹事の発案で設けたこの席には、当初ドナルド・ドイル上智大ソフィア会副会長を筆頭に、中島貞夫、小林孝幸（'57 文教）、田代直彦（'60 経商）、丁門 廣（'64 経経）、丁門久代夫人、師岡文夫（'76 文史）＝参加者の敬称略＝の8人が参加し昼食を共にして歓談したが、その後は



高祖理事長を囲んで女子ソフィアンが昼食

隣の「高砂」の間で開かれた「南三陸の人々とともに歩んだ日々…」講演会に出席し自然解散となった。（村松要約）

俳句のつくり方教室

箱崎 裕幹事（'64 法経）が主宰し「ルビー」の間で開かれ、参加者6人が元日本経済新聞論説委員の今泉恂之介講師（'62 文独）から前半は函館ゆかりの俳人・土方歳三の「わが瀬氷る辺土に年送る」、中島木鶏の「ほととぎすわれも血を吐く思ひかな」、大塩無外の「武士の魂か一声ほととぎす」の話に耳を傾け、後半は俳句入門と手ほどきを受けた。・からすの赤ちゃんなぜ泣くの ・山のお寺の鐘がなる ・ひとりで傘（からかさ）さして行くに自分の言葉を添えて俳句をつくれ、作句できますーという具合。また種田山頭火の句 ・まっすぐな道でさみしい ・ころり寝ころべば青空 ・しぐれて人が海を見ている を例に作句してみる簡単作句法も手ほどきした。（箱崎要約）

国際的に学際的な絆深める大構想を打ち出す

高祖理事長が 2013 年実現へグランド・レイアウト

同時進行で地域代表の情報交換会 地域ソフィア会函館大会(略称)前日の 10 月 5 日(金)、大会当日 6 日(土)、エクスカージョンの 7 日(日)の 3 日間通して、函館地方は爽やかな秋晴れ続き。前日 5 日午後から翌 6 日午後 1 時ごろまでに全国から 225 人のソフィアンが函館国際ホテルに集結した。6 日(土)午後 1 時ごろから始まった 9 つのソフィアンズファミリーの集いと同時進行で、2 階「白鳳」の間では地域ソフィア会代表の情報交換会がスタートした。石川雅弥上智大ソフィア会副会長の開会宣言後、和泉法夫上智大ソフィア会会長が開会挨拶し、第 1 部の情報発信で小泉 究上智大ソフィア会組織委員会副委員長が司会し、「全国大会を経験して」と題して北九州－関西－山梨－各ソフィア会代表が報告。静岡ソフィア会理事が「バザーを通じての寄付」を報告、行方謹四郎八千代ソフィア会会長らが「上智大学創立 100 周年に向けて」の構想を明らかにした。上智大学ソフィア会からは 100 周年記念ソフィア会事業や記念祭、地域大会 拡大東京大会に関する説明後、質疑応答が行われた。休憩後、午後 2 時 15 分から第 2 部の全体会議が開かれ、大宅一裕香港ソフィア会代表が現地報告したほか、各地での会運営のコツや経験談が懇切丁寧に披露され、100 周年への取り組みなどが説明され、戸川宏一上智大ソフィア会副会長の閉会挨拶で情報交換会の幕を閉じた。

吉田さんの司会で大会開幕 一息入れて午後 3 時半からは「鳳凰」の間で吉田かよ子札幌ソフィア会委員の司会により大会が始まった。まず**城木浩一札幌ソフィア会会長**が「上智大学開学 99 年のいま全てが明るい見通しの中で、この函館大会を迎えました。母校の評価がいやが上にも高まっていることは、大変喜ばしいことです。函館は北海道で最初に開けた街です。この地域から母校を眺めることは、大変有意義です。どうかこの函館をゆっくりご覧ください」と**歓迎の挨拶**。続いて**和泉法夫上智大学ソフィア会会長**が「大変素晴らしい函館大会に 225 人ものソフィアンがこうして集いました。大学からもウィリアム・カーリー第 12 代学長、石澤良昭第 13 代学長、高祖敏明上智学院理事長、滝沢 正上智大学学長ら多数の方の他、喜田 勲札幌藤原大学学長も出席さ



歓迎挨拶する城木札幌ソフィア会長と開会挨拶する和泉会長



鮮やかに司会を務めた吉田さん

れています。札幌ソフィア会と函館ソフィア会の皆さんの大変なご努力に対して、皆さんの拍手をお願いします。来年は 100 周年、この地・函館から東京へのバトンリレーが着実に進められ、上智大学へのサポートを同窓会からスタートさせたい。どうか物心両面の支えを」と**開会挨拶**した。

続いて**高祖敏明上智学院理事長**が「この函館大会で北海道日ハムファイターズがリーグ優勝したのを知りました。ついでに日本一にもなって、ともに上智大学 100 周年を祝いたいものです。先にクラウド・ルーメル元理事長が帰天され、山本前理事長も他界され残念なことです。きっと天国から応援して下さいと思っています」と切り出した後、「上智大学は来年開学

100 年、1 号館建設 80 年、理工学部設立 50 年を迎えます。これを機会に国際機関などと協力し国際的な横のウイングを広げ、幼稚園から大学へ縦のウイングをつなげたい。「Sophia connects the World」"Men and Women for Others, with Others"の旗印の下に、全世界のイエズス会教育機関・施設と連携・糾合して、アジア・アフリカ地域も視野に入れた、国際的なつながりを持つ学際的な絆を深める"Global Competency"の実現を目指したい。このグランド・レイアウトを 2013 年を目標に構築し実現・達成したいと願っています。日ハムが日本一を実現し、ソフィアンの私たちへの刺激剤となることを祈念します」と大会参加者**全員**に**アピール**し深い感銘を与えた。



情熱を込めてグランド・レイアウトを披露する高祖敏明理事長

英語で全授業を教えるグローバル化目指す

理工学部や地球環境学科にも英語コース設置

滝澤 正学長も大構想披露 大会開幕挨拶最後に壇上に立った滝澤 正上智大学学長も高祖上智学院理事長に負けない上智大学のグローバル化を目指す遠大な構想を次の通り披露した。「上智大学ソフィア会を軸に札幌ソフィア会と函館ソフィア会の1年にも及ぶ周到な準備のお蔭で、このように盛大な函館大会を開催できたことに、まず心から感謝の意を申し述べます。来年は上智開学100周年—グローバル化が叫ばれる中、上智がさらに先を見据えた計画の下に、グローバル化の先頭を切って行きたい。英語で授業をする方式を、単に英文科・英語学科だけでなく他学部学科にも広げ、理工学部や新設の地球環境学科にも英語コースを新設し、諸外国からの留学生にも門戸を大きく広げたい」と遠大な構想を説明。さらに「秋入学制度は何十年も前から実施しているが、この制度も拡大し、さらに日本文化研究の施設も充実させ、言語研究センターも新たに立ち上げる。また留学生たちの日本での生活保障を充実させ、留学生支援機構を設け留学生収容の塾も充実させる。国内のG 5 (Group of Five)に呼応して世界の5大学との交流を拡充し、海外拠点を新設しグローバルな人材育成プランに応募して許可された」と、上智100周年以降の壮大な教育プランを明らかにした。



大構想を明らかにする滝澤 正学長

「それぞれのソフィア—ソフィアのきずな」

パネル・ディスカッションで将来展望

細川さんの司会でオープン 引き続き午後4時から「それぞれのソフィア—ソフィアのきずな」をテーマにパネル・ディスカッションが始まった。コーディネーター細川佳代子上智大学ソフィア会副会長＝写真右＝の司会で、まずトップバッターの石澤良昭前(第13代)学長以下パネリストは次のように発言した。

石澤良昭前学長 リーチ先生の授業でアンコールワットへの道に「開眼」1989年(平成元年)に第1回ユネスコ調査団長としてアンコールワット遺跡の破壊状況調査に出向いて以来、早くも24年の歳月が流れた。しかし歳月は流れても、私の



1年上に有名な作家になった井上ひさしさんがいらしたのを今でも忘れない。井上さんの「モッキンポット師の後始末」をいま読み直してみると、井上さんの感性がよく分かる。カンボジアにも感性豊かな優秀な若者たちがたくさんいることが分かったが、そのほとんどがポルポト政権時代の弾圧で抹殺された。「困った人がいたら手を貸して上げなさい」とリーチ先生は口癖のようにおっしゃっていた。その「人づくり」は目立たず地道なものだが、上智の学生たちの手で昨年まで延々と続いていた。それを目にして「さすが上智だな…」と感心する。その当時からのボランティア13人は、いまなおカンボジアで活躍している。文部省の役人が視察に出かけた時、カンボジア人が日本語で出迎えたことにビックリしたという。それほど上智の出身者たちは現地の人たちに溶け込み、日本語もしっかり教えているのでしょう。S Jハウスの人たちの貢献は大きい。リーチ先生はもういないが、ソフィアンズナウ編集長の風間 烈さんら9人は、ストラズブールを訪ね、リーチ先生のお孫さんとお会いしたという。(「何を話し合ったのか。人の絆は素晴らしい…」と言いたげな石澤先生の声なき声は、残念ながら筆者の耳には届かなかった。)

ウィリアム・カーリー第12代学長 在学当時、授業はラテン語の講義ばかりで私は疑問に思った。(7Pへ)

大災害時にこそGlobalな絆が必要

カリー先生

(6Pから) それに学科数が多くて大変だった。「ラテン語の授業ハンターイ！」の狼煙を上げたら、「あいつらは革命家だ」



というレッテルを張られた。それでもめげずに、細かいところまで改革案をひねり出し提出したら、やっとラテン語の授業を止めて日本語での講義が実現し、「革命家」の悪評は消えた。来年は100周年—上智大学の将来性を考えると、絆を深めることがますます大切になる。Global化には全く同感！世界にはイエズス会の学校が約800あり、約500万人の学生が学んでいる。イエズス会は実にユニークな存在だ。しかし世界のイエズス会の学校同士には残念ながら連帯感がない。

昨年の東日本大震災のような大災害が発生した時にこそ、Globalな絆をつくる必要がある。今回のこのソフィア会函館大会を契機に、函館から香港、マニラへの連絡網をつくれたらどれほどいいことだろう。どこへ行ってもすぐに話し合い

和服の女性会員も交じり華やかな雰囲気の大大会会場

が出来る、交流がすぐ出来る、ビジネス関係、仕事関係もできるGlobalな絆を結ぶことを提唱したい。

高祖敏明理事長

私は滝澤学長と同じ年。フレッシュマン・ウィークに山岳部入部を勧められ、自然と親しむことで鍛えられた。神父になるには司教館に入るべきだったが、ザビエル寮に入った。夜ドイツ語を勉強中に、電車が走る音で悩まされた。北アルプス縦断中、2年生が50キロもある一番重い荷物を背負われ、舟に乗ろうとした時、舟が岸から離れて水に落ちた。その時、先輩がリュックを投げて舟を引き寄せ、助けてくれた。山岳部では独立独歩とチームワークを学んだ。9月には2、3カ月前から準備していた中国に行く予定だった。文化代表は千宗室さん、スポーツ代表は白鷗横綱、教育部門の顧問は私の予定。ところが尖閣列島トラブルで実現しなかった。満州事変の時に「反日の拠点」にいた中国人の時代が過ぎなければ、真の日中交流の復興は実現しないと思う。日中国交の新たな拠点をつなぐことが大切になろう。国内外の“きずな”の拠点をつなげる第一歩となる上智大学—札幌藤女子大学の“きずな”を、全国的規模で広げることも大切と認識して、いま努力しています。昭和40年ごろ歌舞伎で上演されたというヘルマン・ホイベルス作の戯曲「細川ガラシャ夫人」を、上智100年記念に大阪で再演できないものか検討している。ケルンやルクセンブルグ、マラッカなどで海外公演も実現させたい。



パネラーが先頭切ってまず最前列で待機

滝澤 正学長 パネリストの中で私だけ神父でもなく、カトリック信者でもない。東大出身だが、これは何も問題ではないと思っている。上智大学とは外から緊張感を持って接してきた。長野県出身の田舎者で、童謡「証城寺の狸囃子」の作詞家・中山晋平とは同郷。東大卒の時に上智大から勧誘され法学部で教鞭をとることになったが、当時の上智大法学部には「これから何かやろう…」という気風がみなぎり、「上智を去らない」と決意し、教育方針に共鳴して37年が過ぎた。私が教授になった時、恩師の鈴木竹雄先生が定年になられて…(と言葉を詰まらせた。)上智に来て2日目、教授になって初めて学生から「先生っ！」と呼ばれたのに、素通りし「私のことですか？」と尋ねた失敗談も今では懐かしい。

パネル第2ラウンド

カリー先生：いま国際同窓会の開催を計画中だがPRが大変。専門家に頼んで組織をつくりつつある。来年8月14日から21日までブラジルで開催する予定です。ご協力をお願いします。

石澤先生：カンボジア稲作地帯の皆さんは意気軒昂。日本には「ウサギとカメ」の民話があるが、カンボジアには「ウサギとタニシの駆けっこ」という民話がある。ウサギとタニシが「田圃を3回駆け競べしよう」と競走した。ウサギが3回走っても、どこにもタニシがいるのでタニシの勝ち、という民話です。田圃のどこにもタニシだらけです。

高祖理事長：東日本大震災が起きた時、さまざまのところからご支援を頂いた。被災地からも多くの学生たちが上智に在学中です。韓国からは最初の義援金が届けられた。私たちは全世界のネットワークに「ご支援をお願いします！」と手紙を書き送った。全国の組織体から義援金が続々届けられて、本当に有難かった。

質疑応答 会場から「石澤先生は帯広の温泉郷の出身と伺いました。ご両親は先生のカンボジア出張旅費などの工面で、経営していた旅館が倒産したそうですが…」との質問。これに対し石澤先生は「ええ屈斜路湖畔の自然温泉で旅館を経営していて、私は跡継ぎでした。でもカンボジアへの貢献に熱中し、親からは三井銀行カンボジア支店を通じ送金して貰った。大分多くの仕送りをして貰ったので、旅館は倒産しました……親には大変感謝しています…」と返答された。

パネル・ディスカッションの最後に司会の細川さんが「何か質問はありませんか？」と聞かれたので、村松良彦・前札幌ソフィア会長は高祖理事長が「細川ガラシャ夫人」をぜひ再演したいとの願いを披歴されたのに関連して「これは質問ではないが、ほぼ半世紀も前の昭和40年ごろ、確か歌舞伎座でホイベルス神父作の戯曲『細川ガラシャ夫人』を観て、大変感動したことを鮮明に記憶している。私がこれまでに観た歌舞伎ではこれが最高だと思っている」と答えた。

東京へバトンタッチし和やかに懇親会

上智大学 第4回地域ソフィア会全国



和泉会長から石川氏へ委嘱状



閉会挨拶する戸川副会長

パネル・ディスカッションは午後5時40分に終了。間髪を入れず第5回地域ソフィア会全国大会開催地の東京大会実行委員会への委嘱状授与式が行われた。和泉法夫上智大学ソフィア会会長と石川雅弥副会長が壇上に上り、和泉会長が委嘱状を読み上げた後、石川副会長に手渡し、同副会長がしっかりと委嘱状を受領した。石川副会長は東京大会の実行委員長を引き受け、開学100周年の上智大学を祝賀する東京大会を計画通りに開催することを誓った。この後、戸川宏一上智大学ソフィア会副会長が閉会の挨拶をして、函館大会は閉会となった。

大会会場の後方壁面では上智100周年に至る写真展が

参加ソフィアンたちの目を引き、ヨゼフ・ピタウ神父の著書販売と100周年募金・東北震災義援募金を実施され、基金は上智大学募金委員会へ。

午後6時半からは2階「高砂」の間にソフィアマンドリーノOBによる「マンドリンの名演奏」が響き渡る中で懇親立食パーティー。城木札幌ソフィア会会長の歓迎挨拶後、出席者たちは三々五々円テーブルを囲み、函館国際ホテルのシェフたちが函館近海で獲れる魚介類や、函館近郊の農園で育つ農産物を、腕にのりかけて調理したバイキング料理に舌鼓を打ちながら、和やかな歓談の輪を大きく広げた。「闘牛士のマンボ」で始まったマンドリン演奏は「エスパニアカーニ」「バラのタンゴ」「二つのギター」「さ

くら」へと続き、「うるわしのアルマ・マテル ソフィア」の校歌全員合唱の中、出席者全員で大きなスクラムを組み、閉会となった。



誠心誠意、大会を成功に導いた中村由紀夫函館ホテル取締役が懇親会への歓迎のご挨拶



「ごゆっくりお過ごしを」と城木会長が懇親会歓迎のご挨拶



細川さんも安心してご歓談中



6日夜は快晴下で100万\$を誇る函館山夜景見物

7日のエクスカリ
ションはトラピスト
修道院と山容が変化
する駒ヶ岳を周遊



◎写真撮影協力者＝中島貞夫（'55 経経）磯浦康二（'57 文新）向山肇夫（'63 法法）山内健司（'63 外英）三宅由美（'71 文新）成田眞一（'77 経経）山田洋子（'77 外独）菊田昭子（'92 外西）ご協力誠に有難うございました。お陰様で札幌ソフィア会・函館ソフィア会の広報担当者としての役割をどうにか果たせました。

◎編集人＝村松良彦（'58 文新）

Photo Sketches

Extra Pages for Sapporo Sophians



神谷順子さんの司会で講演スタート



和服の菊田昭子さんを中心に華やかチーズ販売所



マスコミ・ソフィア会
今年が石川啄木生誕 100
年の話題も出て、前夜祭は
啄木が住んだ青柳町に繰
り出し「魚一丁」で晩酌



▲こちらは今泉恂之介講師の指導で
俳句づくりの挑戦しひとひねり
▼マンドリーノOBも負けじと練習

大会のハイライト「それぞれのソフィア・ソフィアの
きずな」パネルディスカッションには満場のソフィアン



伊藤さんが講演
被災地の窮状—復興への願いを込めて…



益田英子さんから温情あふれる質問

ソフィアンズファミリーの集い▼

輪和絆

友情新た
懐旧談にも
花が咲き

深まる絆



大会司会の大役を務める吉田かよ子さん▼





♪名演奏でお耳拝借—マンドリーノOBメンバー♪

忘れた草 アルバム

和やかに懇親会▼



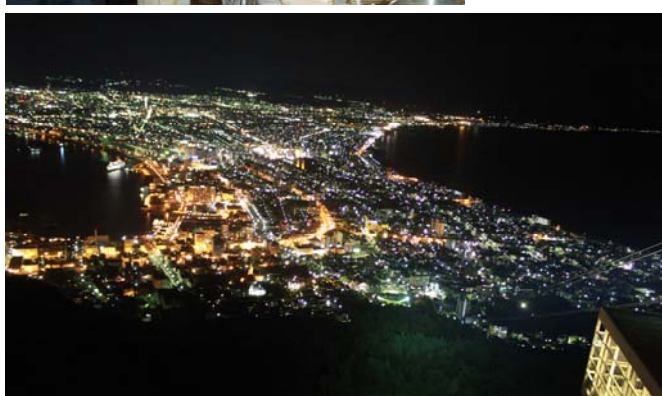
「おいしいチーズはいかがですか？」



大人気の梔子そば？



▲特製ラーメンと上智ワインも人気者▲
▼菊田昭子さん撮影の100万\$函館夜景



10月7日(日) 8:00
エクスカーション出
発—当別トラピスト
修道院訪問。残念なが
ら内部の撮影禁止▼



グリーンピア大沼
で豪華版の昼食▼

真っ白の天井、白木の床、机
と椅子に身を委ね、修道士が
弾くパイプオルガンでバッ
ハの合唱曲と上智大学校歌
を聴き、「心身共に健康で！」
の言葉に心が洗われた朝。



▲肩の荷を下ろし函館夜景を満喫
小林裕幸夫妻も和やかに語らい



「ソフィアン
号」バスは途
中で共和村の
「ケンブリッ
ジ」喫茶室に
立ち寄り札幌
に19:00帰着。